

長崎市の近代都市形成史(第II期)

(長崎歴史文化協会講座)のご案内

長崎大学名誉教授 岡林 隆敏

平成二十四年(二〇一二)七月ごろ、友人の紹介により長崎歴史文化協会での講座を依頼されました。この頃、国交省長崎河川国道事務所の依頼で「長崎街道と近代化遺産案内」の冊子を作成中でしたので、七月二十三日にこの紹介をさせて頂きました。その折、これまで蓄積していた「長崎市の近代都市形成史」の連続講座をお願いしてみようと思ひ、越中先生に相談したところ、快くご了解を頂き、本講座を開始しました。

「長崎歴史文化協会 講座 第一期」(長崎市の都市形成史—近代都市の形成と町の賑わい—)は、平成二十四年(二〇一二)七月から平成二十七年(二〇一五)九月までの四年間、年間三回から四回で、月曜日の十時三〇分から十二時に行いました。

「長崎市近代都市形成史第一期」は終了しましたが、その内容を紹介させて頂きます。

- 第〇回 「長崎街道と近代化遺産」 平成24年7月23日
- 第一回 「長崎街道沿いの近代化遺産の紹介」 平成24年10月22日
- 第二回 「港湾改修事業と都市の形成」 平成25年3月11日
- 第三回 「道路の近代化」 平成25年5月27日
- 第四回 「疫病との戦いと下水道の設備」 平成25年11月18日
- 第五回 「日本で最初のダム式水道の建設と吉村長策」 平成26年6月23日
- 第六回 「第二次長崎港改良工事」 平成26年7月28日
- 第七回 「長崎水道第一次拡張」 平成26年11月17日
- 第八回 「西山・本河内低部ダムの建設」 平成26年12月8日
- 第九回 「外国航路による長崎港の賑わい」 平成27年3月16日
- 第十回 「明治・大正の長崎の街並み」
- 第十一回 「上海航路の時代」

次の長崎歴史文化協会の講座では、これらの近代化遺産を紹介する「第II期長崎市の近代化遺産(近代化遺産を巡る)」を始めました。講座の課題は、長崎市の近代化遺産巡り(長崎市民の誇り—先人が残した長崎市民への遺産—)を考えることです。講座に参加されている皆様と、長崎市の近代化遺産の価値について議論し、その保存と活用について考えたいと思っています。「第II期長崎市の近代化遺産(近代化遺産を巡る)」は次のような内容で進めています。

- 第一回 長崎市の橋の歴史(一) 平成27年11月16日
 - 第二回 江戸時代から明治時代(石橋、木鉄混交橋、鉄橋の時代) 平成28年3月7日
 - 第三回 明治後期から昭和初期(鉄筋コンクリート橋の時代) 平成28年5月9日
 - 第四回 長崎市の近代化遺産(一) 長崎市の橋梁 平成28年5月9日
 - 第五回 長崎市の近代化遺産(二) 長崎市の橋巡り(近代化遺産) 平成28年5月9日
 - 第六回 次回以降の予定は、次のようになっています。
 - 第七回 長崎市の近代化遺産(三) 港湾改良事業と鉄道 6月27日(月)
 - 第八回 長崎市の近代化遺産(四) 長崎市水道事業 講座日未定
 - 第九回 長崎市の近代化遺産(五) 長崎市の道路施設(道路・トンネル) 講座日未定
- その後、①長崎市街地の近代化遺産(水道施設など)、②長崎港口の近代化産業遺産(炭坑施設、海底電線施設、灯台、小菅修船場)、三菱関係産業遺産(ドック、クレーン、工場建築)、国指定有形文化財、国指定史跡、世界遺産の解説を行います。
- 時間をかけて、講師と聴いて下さる方が納得できる時間の流れを楽しみたいと考えています。講演は全て画像・映像で紹介し、誰にでも親しめる最先端の歴史表現に挑戦しています。
- ご興味のある方は、長崎歴史文化協会事務局にご連絡下さい。

風信

一、長崎で六月一日と言えば「**小家入り**」の日であり、一年ぶりに「シャギリ」の音が早朝より聞えてきました。そして、今年の踊町はどこどこであろうかと考える。「今年はジャ踊りがあり、コッコデショーもあるそうです。」とおききました。

- 第一〇回 「雲仙公園温泉リゾートの開発」 平成27年5月25日
- 第一一回 「上海航路と雲仙リゾート」 平成27年7月16日
- 第一二回 「国際観光路線」 平成27年9月7日

これらの講座の内容をまとめて、平成二十七年八月十二日(水)から八月十七日(月)まで、長崎市浜屋デパート催事場で「**モダン長崎展**」—地図と絵巻書で見る長崎市の変遷—を展示しました。短い期間でしたが、多くの市民でにぎわった展示会になりました。

近年、都市の基盤構造物や産業革命の遺構が、近代化遺産として評価されるようになり、国の重要有形文化財や世界遺産に指定されるようになってきました。戦前の長崎市は他都市に比べて市域が狭く、その中で外国人居留地が建設された関係から、全国でも早く都市の近代化が進められました。



講座風景

長崎市では、①市街地の東側に都市施設(道路、橋梁、水道施設など)、②市街地の西岸には造船業施設(ドック、クレーン、工業建築など)、③市の南部の長崎港の入り口付近には石炭・通信施設(造船、高島・端島炭坑、海底電信施設、灯台)などが残されています。狭い市域の中に集中的に近代化遺産が保存されているのが、日本の他のどこの都市にもない、長崎市の特徴です。

一、「**小家入り**」の事については、「幕府時代の長崎」第十章六月の項(P.三三三)を読まれるとよい。(大正二年長崎市発行—増補訂正版昭和四十八年刊)

一、六月二日(木)午前十時半よりアマランス会議室にて平成二十八年度長崎歴史文化協会役員会があり、昨年度の事業報告、今年度事業計画を中心に話が進められた。

一、六月四日(土)午後二時より長崎純心大学主催、「(本会后援)第五回長崎キリシタン文化研究会」を長崎歴史文化博物館ホールにて、講師に東京大学史料編纂所助教川上秀人先生を迎え開催。演題は「長崎の教会建築」であり、多方面より参加者多く盛会であった。

一、六月十日(旧暦五月六日)は四季暦では五月雨入りとあり、昔の人は「つゆ」は「雨七日、日七日、風七日」と言い「つゆ」は二十一日間であるという。

一、津田尚美女史来訪、長崎座敷唄を「うたえ継ぐ人」が少なくなつたので「長崎座敷唄の会」をつくりたいので協力して下さいとの事。戦前の長崎座敷唄は、三菱造船所関係を中心に阪神・東京方面よりの来訪者多く、富貴楼、花月、一力その他、各町々の料亭でも三味線の音にあわせて聞えていた事を思いだす。

一、東京より大隈孝一先生来訪。前回発行された「祈る(Praying)国際的にも有名となり英・佛・独語にて出版したので持参して下さい。(オフィス限刊二、八〇〇円+税)

一、野村美術館より「研究紀要第25号」川上不自、青木大米、蛇蝎葉等の研究。毎回おおいに勉強させられています。

一、大矢正人先生より「長崎原爆の記録映像と原爆をめぐる諸問題」(長崎総科大平和文化研究所刊)長崎原爆の事あらためて考えさせる事が多くありました。

一、純心大学博物館より『信徒発見一五〇周年記念講演集』。片岡学長の「何が信徒発見を可能にしたのか」、古巢神父の「記念劇復活物語」とともに大いに考えさせられるものがありました。(純心大博物館刊)

一、高山文彦先生より自作の「生き抜け その日のために」—「長崎の被差別部落とキリシタン」と副題あり、何か教ええられるものが多くありました。(解放出版社刊、二、三〇〇円)

長崎歴史文化協会研究室

TEL 八二二一—五四〇
十八銀行公会堂前出張所 2F

